

主題 ICTを活用して主体的に学ぶ子どもの育成

－タブレットの効果的な活用を通して－

1 主題設定の理由

(1) 昨年度までの成果と課題

本校では、平成29（2017）年度から4年間、「なかまと学びを深める子どもの育成」を主題とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をしてきた。その結果、めあてと振り返りを意識したり、対話や交流の場の工夫をしたりすることで学びを深めることができた。

その一方で、令和元（2019）年度からの新型コロナウイルスの感染拡大は、対話や交流の在り方にも大きな影響を与えた。

また、国の「GIGAスクール構想」が本来の計画より前倒しで進められていることにも、一斉休校の際に日本のICT活用教育の遅れが明らかになったことが影響している。「GIGAスクール構想」では、「1人1台端末」と「高速通信ネットワーク」を整備することで、「誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学び」を目指しており、学校での積極的なICT活用が求められている。

(2) 課題改善に向けて

昨年度までの課題について、今年度から本格的に導入が始まるタブレット端末を始めとしたICT機器を効果的に活用することで改善できると考えた。そこで、本年度から主題を「ICTを活用して主体的に学ぶ子どもの育成」とし、研究を進めていくこととした。

ICTを活用するためには、「1人1台端末」や「高速通信ネットワーク」といったハード面の整備だけではなく、デジタル教科書・教材などのコンテンツ、子どもや教師が行う学習活動の中身といった、ソフト面の充実が不可欠である。まずは、新たに導入されたタブレットを、教師自身が使いこなし、学習効果を上げていくことを目指していきたい。

また、「主体的に学ぶ」とは、子どもが学びの対象に対して興味・関心をもち、見通しをもって意欲的に問題解決に取り組み、自らの学習活動を振り返って達成感や次の学びへの期待感を得る学習の在り方を指している。タブレットを活用した資料提示、考えの集約等を通して、主体的に学ぶ子どもを育てることができると考える。

以上の理由から、主題1年目である本年度の副題を「タブレットの効果的な活用を通して」と設定し、学校努力点に取り組んでいく。そして、「ICTが効果的に活用されているか」や、「子どもが主体的に学んでいるか」を検証していくこととする。

2 研究の方法

(1) 研究の構想

学校におけるICTを活用した学習場面は、以下の3つに分けられる。【別紙参照】

- | | |
|---|--|
| A | 一斉学習・・・挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して、分かりやすく説明することにより、子どもの興味・関心を高めることが可能となる。 |
| B | 個別学習・・・デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。 |
| C | 協働学習・・・タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子ども同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。 |

（文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」より）

本年度は、「A 一斉学習」における活用を中心に研究に取り組む。「A 一斉学習」では、教師による教材の提示の工夫が求められる。「1人1台端末」の前段階として、まず教師がタブレット端末を中心としたICT機器を、各教科等の指導で効果的に活用できるようにする。そうすることで、子どもの興味・関心を高め、主体的な学びに近づくと考える。

